

有明海奥部における貧酸素水塊の発生状況

(独)水産総合研究センター西海区水産研究所
有明海・八代海漁場環研究センター

1. 湾奥底層の溶存酸素の変動(6月下旬から7月中旬)

有明海では6月下旬からの降雨と、7月10日～15日の大雨に伴う出水により強い密度成層が形成され、湾奥全域(浜川観測塔、浜川沖、六角川観測塔、国営干拓沖、沖神瀬西)で底層の溶存酸素が低下傾向です。

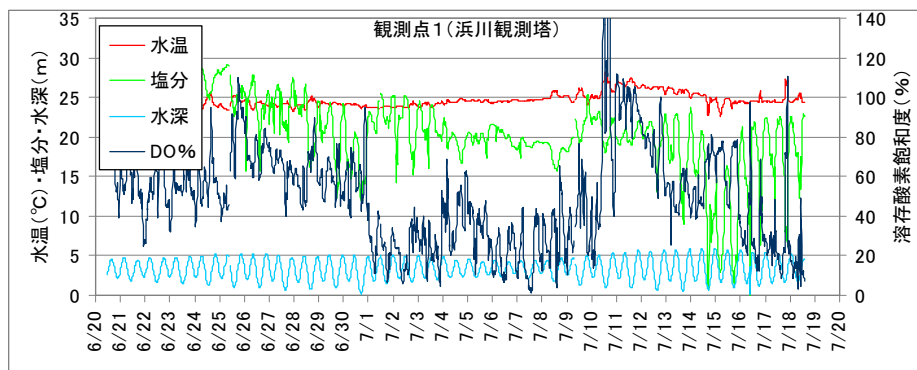


図1a. 有明海奥部底層の溶存酸素等の変動(浜川観測塔)

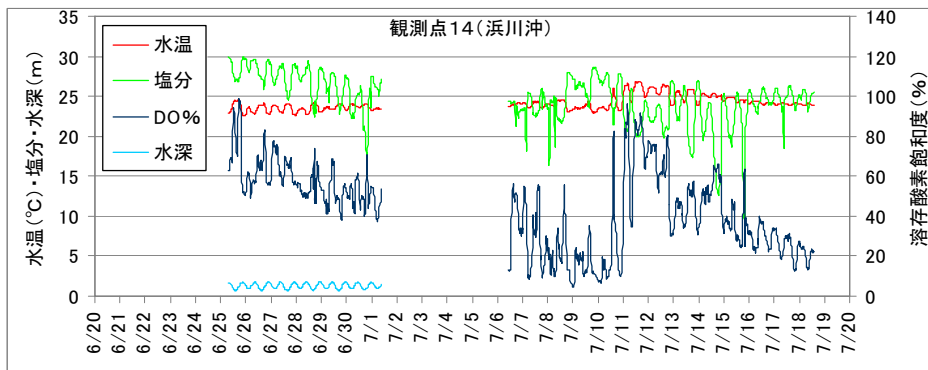


図1b. 有明海奥部底層の溶存酸素等の変動(浜川沖)

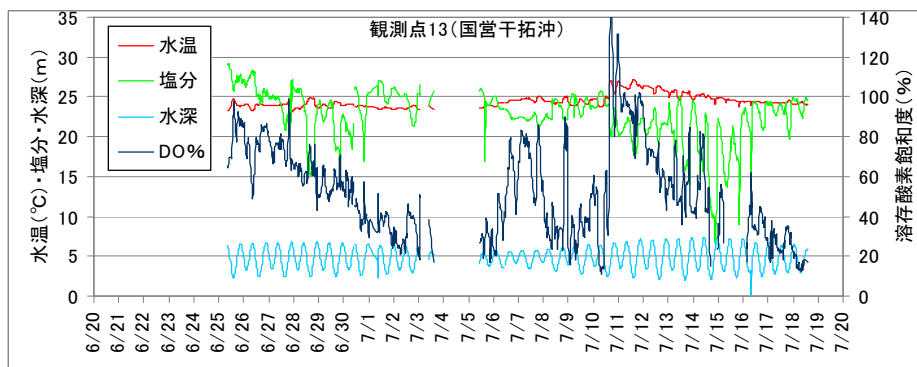


図1c. 有明海奥部底層の溶存酸素等の変動(国営干拓沖)

7月5日(小潮)には湾奥底層で貧酸素となっていました。7月13日(大潮)には湾奥の貧酸素は改善しましたが、沖神瀬西(観測点P6)などの沖合域の底層で溶存酸素飽和度が40%以下が継続しています。今後、小潮の末期(7月19~20日)にかけて溶存酸素が著しく低下する恐れがあります。

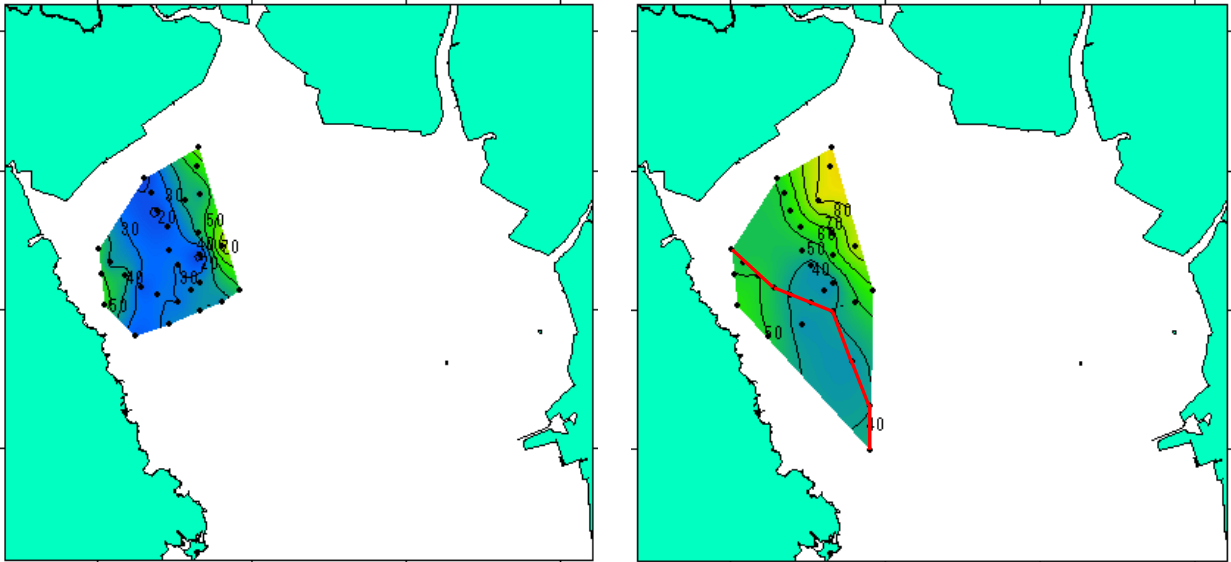


図2. 湾奥部底層の溶存酸素分布(%) (左:2010年7月3日、右:2010年7月13日)

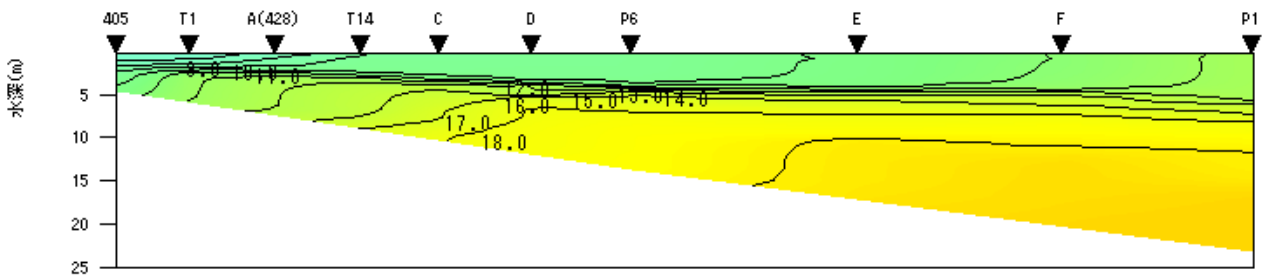


図3a. 湾奥部断面(図2右の赤線)の水質分布(密度、 σ_t) (2010年7月13日)

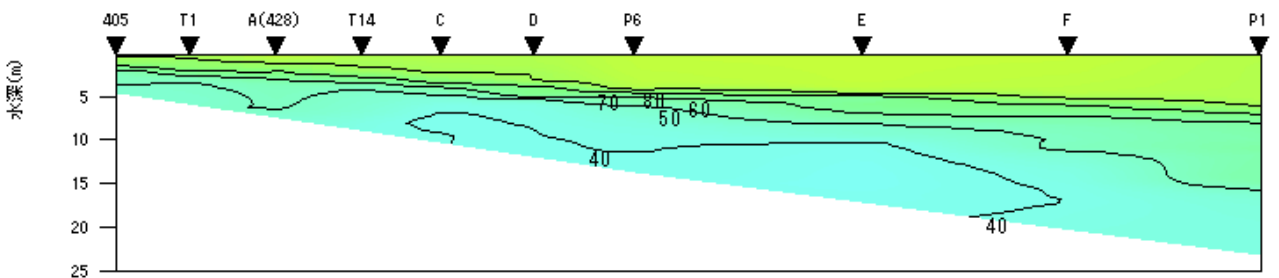


図3c. 湾奥部断面の水質分布(溶存酸素飽和度、%) (2010年7月13日)